２０１２年５月１５日

各　位

会 社 名　第 一 生 命 保 険 株 式 会 社
代 表 者 名　代表取締役社長　渡邉　光一郎
（コード番号： 8750 東証第一部）

第一生命グループ　現中期経営計画における２０１２年度計画 および「グループ経営本部」の設置について

第一生命保険株式会社（社長　渡邉 光一郎）は、現中期経営計画「サクセス１１０」に基づく２０１２年度計画を策定しました。また、今後の成長加速とグループ運営の更なる強化に向けて、２０１２年５月１５日付で「グループ経営本部」を設置しましたので、お知らせします。

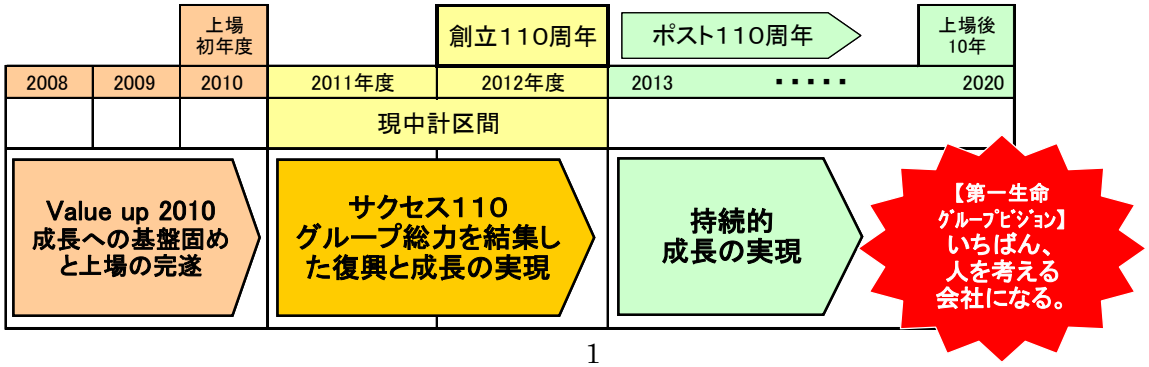
■ ２０１１年度の振返り

現中期経営計画「サクセス１１０～グループ総力を結集した復興と成長の実現」に基づき、東日本大震災で被災されたお客さまに対して、生命保険会社として全面的な保障機能のご提供に最優先で注力するとともに、当社グループの持続的な成長に向けた取組みを推進しました。

- 被災されたお客さまのご契約に対する特別取扱を速やかに実施するとともに、確実に保険金等をお届けすべく、あらゆる経営資源を活用して取組みを推進した。その結果、当社として安否確認を完了したお客さまは、災害救助法の適用地域のご契約 86 万件のうち 99.99%に達した。
- 国内マーケットでは、「新・生涯設計」に基づくコンサルティング、第三分野・個人貯蓄市場への新商品提供等の結果、販売は堅調に推移し保有年換算保険料は順調に増加した。加えて、契約品質の改善、固定コスト効率化も順調に進捗した。
- 海外生保事業では、既進出国における営業実績は順調に伸展し、当社グループの収益力向上に寄与した。また、新たな展開として、中国における設立準備の認可を取得した。
- リスク性資産の削減、資産デュレーションの長期化等の取組みにより資本水準の向上を推進した。

■ ２０１２年度の位置づけ

創立１１０周年を迎える２０１２年度は、復興に向けた取組みを継続しつつ、「次の成長ステージに向けて飛躍する年」と位置づけます。



＜「次の成長ステージに向けて飛躍する年」の趣旨＞

・　２０１２年度は、現中期経営計画の最終年度であり、かつ創立１１０周年を迎える節目の年となることを契機に、一段高い新たなステージを目指す。
・　復興に向けた取組みを継続しつつ、各基本戦略に沿った取組みを進め、中長期的な内外市場での成長確立、効率性の一層の向上、企業価値管理の高度化等、持続的な成長に向けた具体的な成果積上げに取り組む。

■　中期経営計画の基本戦略

Ⅰ. 保障機能の全面発揮と復興・再生
Ⅱ. 成長に向けた事業展開の加速
Ⅲ. 財務基盤強化、成長戦略を支える規律ある資本政策の遂行
Ⅳ. 本格的な連結経営に向けた体制の完成
Ⅴ. ＤＳＲ経営の推進による企業価値の向上

■　２０１２年度計画における基本戦略の具体的内容

Ⅰ. 保障機能の全面発揮と復興・再生

引き続き、すべてのお客さまに確実に保険金・給付金等をお届けできるよう、お客さまの立場に立ったお手続きやお支払いに努めるとともに、東日本大震災を機に「生命保険の意義・私たちの使命『安心の絆』」をグループ全役員・従業員で改めて認識し、継続的に理念の共有・浸透を図ってまいります。

Ⅱ. 成長に向けた事業展開の加速

国内では、「新・生涯設計」戦略に基づき、第三分野および個人貯蓄系商品の投入を継続します。当社では、タブレット型モバイルパソコン（ＤＬ　Ｐａｄ）の新規投入等により、チャネルのコンサルティング力の更なる強化を図るとともに、収益性への連動をより強化した営業職員資格・給与制度への改定により営業業績の向上を図ってまいります。第一フロンティア生命では、引き続き競争力の高い個人貯蓄商品の機動的な投入により資産残高の拡大を進めてまいります。

海外生命保険事業につきましては、当社グループが長年に亘り培ってきたノウハウを活用しつつ、オーストラリアのＴＡＬ社をはじめとした既存進出国における成長戦略の遂行や態勢強化に取り組むとともに、中国事業の早期立上げを含む新たな市場への展開に一層取り組んでまいります。また、成長が期待できる海外アセットマネジメント事業についても引き続き事業参画を検討してまいります。

これらの成長戦略を展開する上で必要となる事業構造の変革としまして、引き続き「５つの変革」に取り組み、更なる固定的コストの効率化を進めてまいります。

Ⅲ. 財務基盤強化、成長戦略を支える規律ある資本政策の遂行

会計基準や資本規制の動向に引き続き留意しつつ、フロー利益による内部留保の積上げとリスクコントロールの推進により、今後の成長加速に資するべく資本水準の更なる向上を目指します。また、「ＥＲＭ：エンタープライズ･リスク・マネジメント（※）」に関する取組みを更に推進し、事業毎のリスク特性等を踏まえた利益水準の向上、成長分野への規律ある資本投下等を実行することで、エンベディッド・バリューに代表される企業価値の安定的な成長を目指してまいります。

※　Enterprise Risk Management（ＥＲＭ）：資本・リスク・利益の状況に応じた経営計画・資本政策等を策定し、事業活動を推進することを指します。

Ⅳ. 本格的な連結経営に向けた体制の完成

当社グループの今後の成長加速とグループ運営の更なる強化を推進する現時点で最適な体制として、当社内に２０１２年５月１５日付で「グループ経営本部」を設置しました。詳細は、４ページ「『グループ経営本部』の設置について」をご参照ください。

Ⅴ．ＤＳＲ経営の推進による企業価値の向上

当社グループでは、従来、経営品質の向上を図りながら企業価値の向上に取り組むことを独自の「ＣＳＲ：企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility）」と位置付けてまいりました。この取組みを更に進化させ、「ＤＳＲ：第一生命グループの社会的責任（Dai-ichi's Social Responsibility）」と表現し、改めて全従業員が、各組織において自律的にＰＤＣＡサイクルを回すことを通じて経営品質の絶えざる向上を図り、各ステークホルダーへの社会的責任を果たすとともに、企業価値の向上に取り組んでまいります。

■　経営目標

【主要目標】

企業価値向上		EV成長率（ROEV）＝8%の平均的成長※
		2012年度 連結当期純利益　250億円
成長性	トップライン	2012年度　個人保険・個人年金保険 保有契約年換算保険料　2010年度比 約3%成長
	成長事業比率	成長事業（第一フロンティア生命・海外生保・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ）の連結利益貢献度2015年度約30%（当初の20%より引上げ）
効率性		2008～12年度で、固定コストの15%を削減
健全性		保有株式の削減・資産デュレーション長期化

※　経済環境の前提が現在の水準から大きく乖離することなく推移すると仮定しています。

【株主還元策】

配当性向	配当性向20～30%

■　「グループ経営本部」の設置について

当社は、２０１２年５月１５日付で本格的な連結経営を担う組織として「グループ経営本部」を設置しました。

当社は、現中期経営計画において、成長に向けた事業展開の加速を戦略の柱の一つに掲げ、海外生命保険事業においては既進出国であるベトナム、タイ、インドに加え、昨年５月にオーストラリアのＴＡＬ社を完全子会社化する等、取組みを着実に進めてまいりました。

また、国内においても「新・生涯設計」戦略に基づき、第一生命において第三分野や個人貯蓄性市場で新商品を投入するとともに、子会社である第一フロンティア生命においても新商品の投入等により保有資産残高を着実に伸展させてきました。

こうした成長分野における取組みを進めるに伴い、子会社・関連会社等の数・規模も拡大しており、従来以上にグループ運営の強化が必要となってきております。これに備えて、現中期経営計画においても２０１３年４月を目処とした持株会社の設立の検討を進めてまいりましたが、今般、既存組織をベースにしながら持株会社の業務範囲を想定した運営を行うことで、経営効率・スピード感を確保しながら成長加速とグループ運営強化を進める、現時点で最適なスキームとして「グループ経営本部」を設置することとしました。

「グループ経営本部」には下部組織として８つのユニットを設置し、本部長に社長を、それぞれのユニット長に執行役員を配置するほか、経営企画・国際業務・収益管理・人事・リスク管理等の既存組織をベースに担当者を兼務形態で配置します。新たなグループ経営体制の下で、内外M＆A等による事業の複線化に併せ、必要な経営管理スキル・機能の強化とインフラ整備の推進、グループ全体でのＥＲＭ推進等を図り、更なる成長加速とグループ全体の企業価値向上を目指します。

なお、持株会社については、機動的な事業再編等により企業価値向上を図るための有用な組織形態であるとの認識に変化はなく、その設置に伴うコスト等を吸収しうる更なる事業複線化が進んだ段階で、「グループ経営本部」から持株会社体制への円滑な移行を図ることとします。

以　上